

底抜け宇宙旅行 (1959)

VISIT TO A SMALL PLANET

メディア 映画

ジャンル SF コメディ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 101分

初公開日 1960/07/10

公開情報 P A R

【解説】

G・ヴィダルの戯曲が原作なので、ストーリーと台詞はしっかりしていて、今でも笑えるJ・ルイス主演作。彼が徹頭徹尾のノータリンを演じず、どこか知的な面もみせるのでホッとさせられる。今日も授業をほうり出して地球周辺をふらふらする宇宙の果ての某惑星の青年クリートンは、南北戦争期のアメリカを見物しようと着陸。ところが、時は1960年。でも、その家の夫妻はちょうど隣家の仮装パーティに出席しようとしていた所なので、彼の南軍の軍装を全く怪しまない。一家の主人スペルディング氏はTVの評論番組のホストで、身支度をしながらも、自身の出演をチェック。そこへクリートンが現れ、彼の“宇宙人否定説”に反駁。自分がその宇宙人たる証拠を見せて、氏は面食らってしまう。氏の娘エレンにはいつもヤギを連れ回す変わり者の恋人コンラッドがいたが、次第にこの恋愛感情を持たない星の旅人に心移りしていく……。ルイスの見せる超能力のトリック撮影も小気味よく、ビート族の店に入って、スキヤットに涙して“アウトすぎてイン”な所をみせるのも楽しい。エレンとの恋に目覚めたクリートンであったが、監視役のデルトン先生に超能力を奪われたときに、コンラッドが嫉妬から警察を呼び、コテンパンな目に遭って、迎えの宇宙船に飛び乗って去るのだった。原作のサタイアの雰囲気薄まったーとの評もあるが、J・ルイスの映画なんですから、ね……。

【クレジット】

監督	ノーマン・タウログ	Norman Taurog
製作	ハル・B・ウォリス	Hal B. Wallis
原作	ゴア・ヴィダル	Gore Vidal
脚本	エドマンド・ピロイン	Edmund Beloin
	ヘンリー・ガーソン	Henry Garson
撮影	ロイヤル・グリッグス	Loyal Griggs
音楽	リー・ハーライン	Leigh Harline
出演	ジェリー・ルイス	Jerry Lewis
	ジョーン・ブラックマン	Joan Blackman
	アール・ホリマン	Earl Holliman
	フレッド・クラーク	Fred Clark
	ジョン・ウィリアムズ	John Williams
	ジェローム・コーワン	Jerome Cowan
	リー・パトリック	Lee Patrick
	ゲイル・ゴードン	Gale Gordon